

『立教観光学研究紀要』 原稿執筆要綱（配布用）

立教観光学研究紀要編集委員会

I ページ設定

1. 用紙と印刷方向

- ・ A4 判用紙を使用する。
- ・ 印刷は縦方向とする。

2. 文字数・行数・段組とフォント

- ・ 本文のフォントは 10 ポイント（日本語：明朝、英数字：Century）とする。
- ・ 本文は、22 字(字送り 9.85pt)×43 行(行送り 15.95pt)の 2 段組とする。表題、要約などの 1 段組部分は、46 字(字送り 9.85pt) ×43 行(行送り 15.95pt)で設定する。
- ・ 原稿は横書きで執筆する。

3. 余白

- ・ 上 30mm、左・右・下 25mm とする。
- ・ 「論文」「博士論文概要」の和文要約部分については、II－3 で別途定める。
- ・ 「論文」「博士論文概要」の英文要約部分については、VI で別途定める。

4. ヘッダー・フッター

- ・ 何も指定しないこと。

II 表題のページ

1. タイトル

- ・ 「論文」「博士論文概要」の場合は、1 ページ目に、和文のタイトル、サブタイトル（ある場合）を記載する。最終頁の英文要約の頁に、英文のタイトル、サブタイトル（ある場合）を記載する。
- ・ 「研究ノート」「修士論文要約」では、1 ページ目に和文・英文のタイトル、サブタイトルを併記する。
- ・ タイトルは 14 ポイント、サブタイトルは 11 ポイントとし、センタリングする。フォントはページ設定に準ずる。強調指定なし。
- ・ タイトル（またはサブタイトル）のあとは 1 行改行する。

2. 氏名

- ・ 「論文」「博士論文概要」の場合は、1 ページ目に、和文氏名を記載する。最終頁の英文要約の頁に、英文氏名を記載する。右寄せ。
- ・ 「研究ノート」「修士論文要約」では、1 ページ目に和文・英文の氏名を併記する。右寄せとするが、和文・英文氏名の左端開始位置はどちらか長いほうに合わせる。
- ・ 英文氏名は、姓・名の順に標記する。姓と名の間にカンマは不要。姓はすべて大文字、名は 1 文字目のみ大文字であとは小文字とする。外国人については、本人の希望を認めることを原則とするが、編集委員会との事前の協議を必要とする。
- ・ 英文・和文とも氏名は 11 ポイント右寄せとする。フォントはページ設定に準ずる。強調指定なし。
- ・ 氏名のあとは 1 行改行する。

【例】→右寄せ記載

古本 泰之

FURUMOTO Yasuyuki

3. 要約

- ・ 左右の余白として、それぞれ3文字分（または35mm）とる。したがって、1行は40字とする。
- ・ テキストボックスの使用は禁止する（文字が部分的に欠けるのを阻止するため）。
- ・ 使用フォント、文字サイズはページ設定に準ずる。要約のあとは1行改行する。
- ・ その他記載書式は、III-4に準ずる。
- ・ 要約には、結論部分を含めた論文の全体の内容がわかるようなものにする。とくに、筆者が明らかにした点について、明確に記述することを必要とする。

4. キーワード

- ・ 論文の内容を的確に表すと考えられる3～5語を選定し、記載する。
- ・ 「論文」「博士論文概要」の場合は、1ページ目に、和文キーワードを記載する。最終頁の英文要約に英文キーワードを記載する。
- ・ 「研究ノート」「修士論文要約」では、1ページ目に、和文キーワード、英文キーワードを各1行併載する（改行要）。キーワードのあとは1行改行する。
- ・ 使用フォント、文字サイズはページ設定に準ずる。
- ・ キーワードの選定に関して、とくに特定地域を扱った論文・研究ノートの場合は、地域の固有名詞を含めることを要する。

【例】

キーワード：都市観光、イメージ、観光地区、横浜、神戸

Keywords: urban tourism, image, tourism district, Yokohama, Kobe

5. 脚注参照

- ・ 脚注は本文のあと、参考文献の前に一括掲載する。
- ・ 表題や本文中に脚注番号を示す際、その場所の文字の右肩に算用数字の通し番号と半角右カッコで示す。
- ・ 使用フォント、文字サイズはページ設定に準ずるが、「上付き文字」の設定を加えること。
- ・ 文末の脚注の書式設定については、V-1で述べる。

【例】

1970年代には、消費者情報処理モデル³⁾、そして近年になって

III 本文

1. 章

- ・ 前後1行ずつあける。数字は半角、番号の後ろは全角スペース1文字。
- ・ フォントは明朝10ポイント。英数字はCenturyを適用。強調指定なし。左寄せ。

【例】

1. 研究の背景と目的

2. 節

- ・ 前後1行ずつあけない。数字・カッコとも半角、番号の後ろはスペースなし。
- ・ フォントは明朝10ポイント。英数字はCenturyを適用。強調指定なし。左寄せ。

【例】

(1)調査方法

3. 項

- ・ 前後1行ずつあけない。数字・カッコとも半角、番号の後ろはスペースなし。
- ・ フォントは明朝 10 ポイント。英数字はCentury を適用。強調指定なし。左寄せ。

【例】

1)研究の背景と目的

4. 本文文章

- ・ 本文のフォントは 10 ポイント（日本語：明朝、英数字：Century）とする。
- ・ 本文を日本語で執筆する場合、句読点は、「、」「。」で設定すること。
- ・ 文中の数字は、一桁の場合は全角（章・節・項見出しを除く）、二桁以上の場合は半角とする。
- ・ 外国の人名などについては、初出ではフルネームで、以降は姓のみを記載する。
- ・ 記号の使用、とくに登録商標(R を丸で囲んだもの)、著作権(C を丸で囲んだもの)、有意水準の記号(アスタリスク 1～2 個)など慣例的な使用法が定まっているものには注意すること。
- ・ 略号について、論文内初出では、「日本で定着している訳語（英語正式名称、英語略称）の順で、以降は英語略称で記載する。

【例】

英国旅行業協会(Association of British Travel Agents, 以下 ABTA と略す)に加盟する旅行業者は……

IV 写真、図表および数式

1. 共通事項

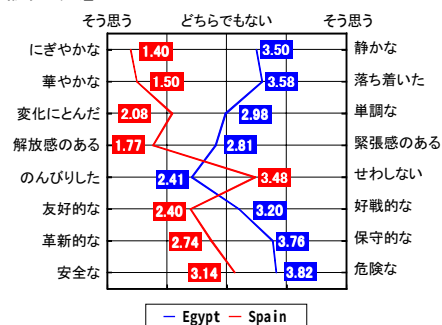
- ・ 図と表にわけて通し番号をつけて表記する。位置は、表の場合は上部にセンタリング、図の場合は下部にセンタリングで記載する。フォント、文字サイズはページ設定に準ずる。
- ・ 図表番号は、1 桁であれば全角、2 桁以上の場合は半角とし、数字の後ろは全角 1 文字分あける。
- ・ 説明文、図表注は、下部に左寄せ、ぶら下げインデントで記載する。
- ・ 別紙の図表を貼り込む場合には、本文の該当箇所に必要分のスペースを設け、スペースに合う大きさに拡大・縮小した原稿をクリップなどで添付して提出する。

2. 写真

- ・ 写真を論文で使用する際は、原稿提出時に編集委員会に相談することを原則とする。
- ・ 出所を明記することを必要とする。筆者自身が撮影した場合でも「筆者撮影」と明記すること。
- ・ 記載例としては、『立教観光学研究紀要 第3号』所収の朱専法氏の論文、「中国・山西省における古塔の景観的特徴について」(pp.3-12.)を参考にされたい。

3. 図表

【記載例：図】



【記載例：表】

表1 千葉市6区の人口

区名	人口(人)	構成比(%)
市全体	895,316	100.0
中央区	173,654	19.4
花見川区	181,007	20.2
稲毛区	147,847	16.5
若葉区	151,233	16.9
緑区	104,421	11.7
美浜区	137,154	15.3

(資料)『千葉市政だより』2001 年 10 月号をもとに筆者作成

2000 年度研究調査法演習受講生実施による調査結果をもとに作成

図6 エジプトとスペインのイメージの比較

4. 数式

- ・ 数式を記載する場合は、別途対応を定めるので、事前に編集委員会に相談すること。

V 脚注・参考文献

1. 共通事項

- ・ フォントはページ設定に準ずる。文字サイズは9ポイントとする。改行ピッチを本文よりやや詰める。
- ・ 境界の罫線はなしとする。
- ・ 注、参考文献の始まりは、【】で囲んで表記すること。

2. 脚注

- ・ 右の例にならって掲載する。

【例】

【注】

- 1) 日経リポート(1992)および永井(1992)等
- 2) コクド、西武鉄道を中心とした西武グループは堤義明に、西武百貨店を中心とした西武セゾングループは堤清二へと引き継がれた。
- 3) . . .

3. 参考文献

- ・ 著者名のアルファベット順に並べ、文末に一括して掲載する。「修士論文要約」は掲載の必要はない。
- ・ 白坂教授による「SATにおける文献記載の形式について」を参照して記載のこと。

VI 英文要約

1. 文字数・行数・段組とフォント

- ・ 本文のフォントは10ポイント（日本語：明朝、英数字：Century）とする。
- ・ 本文は、46字(字送り9.85pt)×43行(行送り15.95pt)で設定する。

2. 余白

- ・ 上30mm、左・右35mm、下25mmとする。

3. 記載内容

- ・ 英文タイトル、英文氏名、要約本文、英文キーワードの4項目とする。
- ・ 詳細は、II-1、2、4を参照のこと。
- ・ 要約本文については、編集委員会主催の「英文講習会」における指示内容をもとに執筆すること。